

古代中国の魅力にせまる——戦争と人物から見る

佐藤信弥

(立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 客員研究員)

はじめに

○時代：殷代～秦代。

○テーマ：主要な戦争と、軍事に関わった重要人物を軸に古代中国の歴史を見ていく。

1. 婦好

○殷：

- ・多数存在する方国^{ほうこく}のひとつ。最大の方国。
- ・他の方国と敵対、あるいは連合。[01]

○婦好：

- ・殷王武丁の妃^{ぶてい}で、出征の記録がある。[02]
……『史記』などの文献に見えず、発掘資料によってのみ知られる人物。
- ・殷代には他にも出征した女性たちがいた？……婦姘^{ふげい}、小屯18号墓の子吉母^{しきつぼ}、女性兵士の存在？

[01] 甲骨文（合集 6057 正）

癸巳卜す、殻貞う、旬に^{うれい}困亡きか。王占いて曰く、「崇り有り、其れ来^{らいかん}艱有らん」と。訖に五日丁酉^{てい}に至り、允^{まこと}に来 [艱] 有りて、西 [自りす]。沚戩^{しかく}告げて曰く、「土方^{どほう}、我が東鄙^{とうひ}を囲み、二邑を翦^{せん}せり。吉方^{くほう}も亦た我が西鄙の田を^{おか}侵せり」と。

（癸巳の日に卜占を行う、殻が問う、この十日の間に悪いことがおこらないだろうか。

王が卜兆を見て言うには、「崇りがある、災いがやってくるだろう。」結局五日後の丁酉の日に、本当に西から災いがやってきた。沚戩が報告して言うには、「土方^{どほう}が我が東辺の土地を包圍し、二つの邑を殲滅しました。吉方^{くほう}もやはり我が西辺の田地に侵入しました。）」

[02] 甲骨文（合集 6412）

辛巳卜す、争貞う、今早王、人を収し、婦好^{ふこう}を呼びて土方を^う伐たしむるに、有祐^{ゆうゆう}を受けんか。五月。

（辛巳の日に卜占を行い、争が問う、「今朝王が人を徴集し、婦好^{ふこう}に命じて土方を征伐させるのに、神霊の加護を受けられるだろうか。五月。）」

2. 牧野の戦い

○周：もともとは方国のひとつ。殷に諸侯として服属していた。

○前 1046 年？：牧野の戦い

- ・同時代史料である金文により、甲子の日に戦いがあったことが証明された。[03]
- ・第一次克殷……1 日で決着がつく。殷の勢力を完全に滅ぼすに至らない。
- ・当時の戦争……戦車による車兵中心。周の方が戦車の扱いに習熟していた？

○商邑の乱：

- ・殷の遺民たちが紂子耿（紂子聖）を擁立して周に反乱。[04]
- ・第二次克殷……殷の勢力を完全に滅ぼす。

○周王朝による統治：

- ・王朝と対等の立場の方国が消滅。
- ・王朝（中央）と、王朝に服属する諸侯（地方）の支配範囲が殷代より広がる。

[03] 利簋（集成 4131）

珣（武王）商を征す。隹れ甲子の朝、歳鼎して克つ。昏に、夙に商を有す。辛未、王、管師に在り、右史利に金を賜う。用て斿公の宝尊彝を作る。

（武王が殷を征した。甲子の日の朝に、突撃して勝利した。晩には、速やかに商を占領した。（七日後の）辛未の日に、王は管師にあり、右史の利に銅を賜った。（利は）それによって（祖先の）斿公を祀るための銅器を作った。）

[04] 清華簡（清華大学蔵戦国竹簡『繫年』第三章

周の武王既に殷に克ち、乃ち三監を殷に設く。武王陟するに、商邑興り反き、三監を殺して紂子耿を立つ。成王、商邑を踐伐し、紂子耿を殺す。

（周の武王は殷に勝利し、そこで三監を殷に設けた。武王が没すると、商邑が立ち上がって叛き、三監を殺して紂子耿を擁立した。成王は商邑を攻め滅ぼし、紂子耿を殺した。）

3. 周の昭王と厲王

○第 4 代昭王による南征：

- ・失敗に終わる（漢水で溺れ死んだという伝承）→西周の衰退のはじまり。
- ・これ以後、周王は親征をしなくなる……軍事王としての立場を放棄。

○第 10 代厲王：

- ・親征・積極攻勢を再開し、軍事王としての地位を取り戻そうとする。[05]
- ・西周で唯一の金文を自作する王……軍事面や祭祀面での特異性が暴君としての評価につながる。
- ・前 841 年：国を追われ、周では一時「共和の政」が成立。
- ・玁狁（犬戎）との「百年戦争」の開始→前 771 年：西周の滅亡。

[05] 猷鐘（宗周鐘）（集成260）

王、肇に文武の勤めし疆土を遙省す。南国の服子敢えて我が土を陷虐するに、王、敦伐せんとして其れ至り、厥の都を撲伐す。服子迺ち間を遣わし来たり逆えて王に昭ゆ。南夷・東夷の具に見ゆるは廿又六邦。

（王はここに文王・武王が懸命に治めた疆土を巡察した。南国の服子があることか我が領土を侵略したので、王が討ち滅ぼそうと到来し、その都を討伐した。服子はそこで（降伏の）使者を派遣し、王を出迎えて対面した。南夷・東夷の（首領で）ともに謁見したものは二十六邦にのぼる。）

4. 城濮の戦い

○前770年～前738年？：周の東遷

- ・王都を宗周（鎬京）から洛邑へと移す。
- ・東遷以後を東周時代（春秋・戦国時代）と呼ぶ。
- ・周王朝の統制力の弱体化→諸侯による外交の開始。

○覇者体制

- ・有力諸侯が周王朝を支える覇者となり、覇者を中心とする「国際秩序」が形成される。
- ・小覇（鄭）、小伯（斉）→斉の桓公が覇者となる。
- ・晋の文公以後、覇者の地位は晋の君主が代々継承。
- ・中原の諸侯……南方の楚と敵対。

○前632年：城濮の戦い

- ・晋と楚との戦いで、晋が勝利。踐土の会盟によって文公が覇者に任じられた。
- ・子犯鐘……子犯（狐偃）の青銅器銘。城濮の戦いの同時代史料。
- ・西の六師……西周時代の周王朝の正規軍→「尊王」の意識。

[06] 子犯鐘（銘図15200～15215）

隹れ王の五月初吉丁未、子犯、晋公の左右を助け、其の邦に来復す。諸楚荆、命を王の所に聴かず。子犯及び晋公、西の六師を率いて、楚荆を搏伐し、孔だ大功を休す。楚荆、厥の師を喪い、厥の口を滅ぼす。子犯、晋公の左右を助け、諸侯を變して王に朝せしめ、克く王位を奠む。

（王の五月初吉丁未の日、子犯は晋公を側近として輔佐し、晋に帰国した。楚と同盟諸国は周王に服属しなかった。子犯と晋公は西の六師を率いて、楚を討伐し、大きな軍功があったことを喜んだ。楚はその軍を喪失し、その口が滅びた。子犯は晋公を側近として輔佐し、諸侯をまとめて王に朝見させ、王位を安定させた。）

5. 孫子（孫武）

○兵法の誕生……2つの要因

- ・戦争の形態の変化……車兵中心の編制から歩兵中心の編制へ。
- ・戦争に関する意識の変化：

○西周～春秋時代の戦争観：

- ・戦勝や軍功は祖霊の加護によるものとされる。[07]
- ・祖霊が見守る→正々堂々と戦うことが求められる。

○孫子（孫武）

- ・呉王闔閭・夫差に仕える。
- ・呪術性の排除、合理性を尊ぶ→「兵は詭道なり」という兵法の誕生。
- ・廟算……宗廟は戦勝を祈願する場所から作戦計画を練る場所へ。[08]
- ・1972年：銀雀山漢簡『孫臏兵法』の発見→現行の『孫子』は孫武のものと位置づけられる。

[07] 莒簋（集成 4322）

雎れ六月初吉乙酉、堂師に在り、戎、邲を伐つ。莒、有司・師氏を率いて奔追して戎を椋林に襲い、戎を胡に搏つ。朕が文母競敏寗行にして、休にして厥の心を宕げ、永く厥の身を襲い、厥の敵に克たしむ。獲馘百、執訊二夫、戎兵を俘すこと、盾・矛・戈・弓・箛・矢・裨・冑、凡そ百又卅又五款、戎の俘人を掣ること百又十又四人、搏を卒え、莒の身に愍い無し。乃の子莒拝稽首し、文母の福烈に対揚し、用て文母日庚の宝尊簋を作る。

（六月初吉乙酉の日、（莒は）堂の駐屯地に駐在している際に、戎が邲の地に侵入した。私莒は役人や師氏を率いて駆けつけ、戎を椋林の地で襲撃し、（ついで）胡の地で戦った。我が亡母（の御霊）は強大にして俊敏で、よく私の心をくつろがせ、ずっと私の身に寄り添い、敵に勝たせてくれた。（戦果は）敵首百、捕虜二人、兵器を鹵獲すること、盾・矛・戈・弓・矢筒・甲冑のおよそ百三十五揃い、戎の捕虜を奪還すること百十四人、戦闘を終え、莒の身に過失はなかった。あなたの子の莒が拝礼し頓首して、亡母の福運功德に感謝し、亡母日庚を祀るための宝簋を作った。）

[08] 『孫子』始計篇

夫れ未だ戦わずして廟算して勝つ者は、算を得ること多ければなり。未だ戦わずして廟算して勝たざる者は、算を得ること少なければなり。

（そもそも開戦しないうちから廟算を行って勝つというのは、勝算が多いということである。開戦しないうちから廟算を行って勝てないというのは、勝算が少ないということである。）

6. 改革者たち（商鞅と趙の武靈王）

○戦国の七雄：秦・韓・魏・趙・燕・斉・楚……それぞれ王と称するようになる。

○商鞅：

- ・衛の出身。魏で重用されず、秦の孝公のもとで変法を行う。→秦の強国化
- ・変法：軍功爵の導入など→秦漢時代の二十等爵制へ。
- ・ただし、変法が商鞅ひとりによって実施されたのかどうかは議論がある。

○趙の武靈王：

- ・胡服騎射：胡（遊牧勢力）と対抗する同時に、親和するための改革。
……自国を中原の国家としてだけでなく、胡の政権としても位置づけようとした。
- ・武靈王以後、趙も強国化していく。

○戦国諸国の「小帝国」化：

- ・ 帝国：強大な軍勢力を背景として多様な集団を統治する国家。
- ・ 趙：林胡・楼煩など胡の勢力や中山国を征服。
- ・ 秦：西南の巴・蜀や西北の義渠を征服。
- ・ 燕：東胡を征服。朝鮮半島方面へと進出。
- ・ 楚：越を征服。

→いずれの国も征服地に郡を設置している。

7. 始皇帝と統一戦争

○秦の昭襄王（始皇帝の曾祖父）：秦一強体制が確定的に。

- ・ 覇者体制からの脱却……戦国時代にも魏の文侯や秦の孝公が覇者となる。
- ・ 前 288 年：斉が東帝、秦が西帝と称する→短期間で取り下げ。
- ・ 前 299 年：秦が楚の懐王を拘留→前 278 年：秦の白起が楚都の郢を陥落。
- ・ 前 260 年：長平の戦い……秦が趙に大勝。

○秦王政→始皇帝：

- ・ 幼少で即位。当初は相国の呂不韋が政権を握る。
- ・ 前 235 年：呂不韋を失脚させ、親政を開始。
- ・ 前 230 年～前 221 年：韓・魏・楚・燕・趙・斉の順で滅ぼし、「中国」を統一。

○統一が唯一の選択だったのか？

- ・ 秦が他国を尽く滅ぼして全国を直轄支配するという統一国家像。……郡県制
- ・ 諸侯が秦に服属し、秦が「帝」として君臨するという国際秩序観。……封建制
- ・ 統一戦争が始まる前 230 年頃に路線が変わる？ [09]

[09] 『史記』秦始皇本紀

異日韓王、地を納めて璽を效し、藩臣と為るを請う。寡人以て善しと為し、兵革の息まんことを庶幾う。已にして約に倍き、趙・魏と合従して秦に畔く、故に兵を興こして之を誅し、其の王を虜にす。

(以前韓王は(我が国に)領土を納めて印璽を献上し、藩臣となることを請うた。私はこれを善しとし、戦乱がやむことを願った。しかしほどなくして(韓は)盟約を違反し、魏・趙と同盟して秦に背いたので、兵を発して成敗し、その王を捕らえたのである。)

おわりに

○始皇帝の巡幸：

- ・ 五度にわたって東方の斉など征服地を視察・周遊。
- ・ 各地に刻石を残す。……義兵説に基づき、秦による統一の正当性を主張する。[10]
(力のある皇帝が暴虐な王の支配する六国を滅ぼし、その暴政に苦しむ民を救った。)

・傲慢な思想を持つ始皇帝を旧六国の人々はどう見ていたか？

……項羽「彼、取って代わるべし」

○前 209 年：陳勝・呉広の乱

・楚国の復興……秦による統一を拒絶。

・秦末の動乱～楚漢戦争……六国の復興

○秦とは異なる形の統一へ……漢の郡国制（漢と諸侯国との連合体制）。

[10] 会稽刻石（『史記』秦始皇本紀より）

六王専らにして倍き、貪戾にして傲猛、衆を率いて自ら疆しとす。……内に詐謀を飾り、外に來たりて辺を侵し、遂に禍殃を起こす。義威もて之を誅し、暴悖を殄熄し、乱賊滅亡せり。

（六国の王は勝手気ままに（我が国に）背き、貪欲かつ暴虐で、傲り高ぶって凶暴であり、衆庶を率いて強勢を誇っていた。……（六国の）国の内では謀略が横行し、国の外では他国の辺境に侵攻し、とうとう災禍を引き起こした。（我が国は）正義と武威によって六国を誅伐し、暴虐な者どもを滅ぼし尽くし、世を乱した賊徒は滅亡した。）

参考文献

合集：郭沫若主編、中国社会科学院歴史研究所編『甲骨文合集』（中華書局、1977～1982年）

集成：中国社会科学院考古研究所編『殷周金文集成（修訂増補本）』（中華書局、2007年）

銘図：呉鎮烽編『商周青銅器銘文暨図像集成』（上海古籍出版社、2012年）

大櫛敦弘「統一前夜—戦国後期の「国際」秩序—」（『名古屋大学東洋史研究報告』第19号、1995年）

夏含夷（ショーネシー）「中国馬車的起源及其歴史意義」（『古史異観』、上海古籍出版社、2005年。初出1988年）

佐藤信弥『周一理想化された古代王朝』（中公新書、2016年）

高木智見『孔子—我、戦えば則ち克つ』（山川出版社世界史リブレット人、2013年）

鶴間和幸『人間・始皇帝』（岩波新書、2015年）

橋本明子「戦国趙の「胡服騎射」」（『名古屋大学東洋史研究報告』第30号、2006年）

松島隆真「陳渉から劉邦へ」（『漢帝国の成立』、京都大学学術出版会、2018年。初出2014年）

宮本一夫「東周代燕国の東方進出」（『東洋史研究』第78巻第2号、2019年）

榎山明「中国古代史からのコメント」（「ヤマト政権＝前方後円墳時代の国制とジェンダー」、『法制史研究』第67号、2017年）

湯浅邦弘『中国古代軍事思想の研究』（研文出版、1999年）

楊寛「論周武王克商」（『西周史』、上海人民出版社、1999年。初出1988年）

楊寛『戦国史』（商務印書館、1997年）

吉本道雅「商君変法研究序説」（『史林』第83巻第4号、2000年）

関連年表

時代	西暦年	出来事
殷	前 1600 年?	殷王朝成立。
	前 1250 年?	殷王武丁が即位。
西周	前 1046 年?	牧野の戦い→周王朝成立。
	前 977 年?	周の昭王が没し、南征が挫折。
	前 841 年	周の厲王が出奔し、共和の政が成立。
	前 771 年	西周が滅亡。
春秋	～前 738 年	周の東遷。
	前 651 年	葵丘の会→斉の桓公が覇者となる。
	前 632 年	城濮の戦い、踐土の会盟→晋の文公が覇者となる。
	前 506 年	柏挙の戦い→呉王闔閭が楚を破る。
	前 473 年	越が呉を滅ぼす。
戦国	前 453 年	晋で韓・魏・趙三氏が智氏を滅ぼす。
	前 403 年	韓・魏・趙が諸侯として公認される。
	前 356 年	秦で商鞅が変法を開始。
	前 307 年	趙の武靈王が胡服騎射を実施。
	前 288 年	斉と秦が称帝する。
	前 278 年	秦の白起が楚都の郢を陥落。
	前 260 年	長平の戦いで秦が趙を破る。
	前 235 年	秦王政が親政を開始。
	前 230 年	秦が統一戦争を開始。
秦	前 221 年	秦が「中国」を統一。
	前 210 年	始皇帝が没する。
	前 209 年	陳勝・呉広の乱が勃発。
	前 206 年	秦が滅亡。